

知事広聴「平太さんと語ろう」 記録

【開催日時】平成25年11月20日（水）

13時30分～15時30分

【会 場】御殿場市民会館 小ホール

1 出席者

- ・ 発言者 御殿場市、小山町において様々な分野で活躍されている方

6名（男性4名、女性2名）

- ・ 傍聴者 164人

2 発言意見

	項 目	頁
発言者 1	富士山の文化・歴史の保全と継承	3
2	富士山を絡めた小山町の伝統や文化の発展	4
3	地域包括支援センターの活動報告と県への支援の要望 JR御殿場線富士岡駅のバリアフリー化	9
4	静岡県茶業界の現状と課題	12
5	「みくりやそば」あなたのそばで振舞隊の活動報告 東京オリンピックを活かした地域の魅力づくり 北駿地区の医療事情	18
6	ごてんばアート・クラフトフェアの紹介 静岡県東部地域の観光と芸術の発展	21
傍聴者 1	富士山の遭難救助体制の確立への要望	29
2	御殿場市の銘菓の製造	30
3	支援学級生徒の高校進学における現状と課題	31

<県知事挨拶>

皆様、こんにちは。「こんにちは」今日は平日であるにもかかわらず、小山町長様、御殿場市長様、それから県議の先生方にも御出席賜り、御殿場並びに小山の市民の皆様、町民の皆様、たくさん来ていただきまして誠にありがとうございます。

この広聴会というのは、広報という静岡県のやっていることを皆さんにお知らせするのが広報で、反対に市民、町民の皆様のお声を聞くのが広く聴くという広聴会ということで、その広聴会として小山町、それから御殿場市の方からそれぞれ地域のリーダーの方たちがこちらに来てくださっているということです。

私、知事室というのは静岡市内の県庁の東館の5階にあるんですけども、通常はそこで仕事をするんですが、県の仕事は本来は県の皆様方の生活あるいは産業、生活がよくなり、産業が栄えるということのためのものです。その下支えをするのが県庁の仕事でありますので、大事なことは皆現場にあるわけです。ですから静岡県の方々がだれが来ていただいてもいいということで、ドアは完全にオープンにしてあるんですが、なかなかやはり皆様方もお忙しいし、何となく敷居が高いというイメージもあってお越しになりにくいということがあって、私の方からそのドアをもう開け閉めすることなく、しょっちゅう外に出るということをしておりまして、そしてそうですね、最初の4年間で1,200回を超える県下の市町への訪問をしたぐらいです。1日に数カ所行くことがありますので、そういう数になるんですね。

それだけでもやっぱり不十分で、やはりこちらはそれなりに遠くはないと言っても、例えば石廊崎に行くとなると大変ですよ。あるいは大井川の北側の井川に行くというのも大変です。さらに天竜川の一番の上流であります水窪などというところに行くとなりますれば、半日かけて行って、ちょっと仕事して帰ってくるということだけで1日仕事になりますので、それで移動知事室というのを始めたんです。

それは今回も実はこの3日間県庁に出ていません。実はもう泊まりがけで朝から夜まで現地の方々とお目にかかってお話を聞いて、そしていろいろな課題をその場で一緒に相談しながら解決に向けてするということをしております。今日は移動知事室の最後の華を飾るのがこの御殿場市、小山町における広聴会ということでございます。

けさは早くに小山町の方にお邪魔させていただきまして、豊かな森林資源を製材をされたり、あるいは間伐材をペレットにするというその工場を見せていただいたりいたしました。また御殿場の「さくら」というおいしい卵がありますけれども、ああいうものをつく

っていらっしゃる実際に販売されている方のお店に伺ったり、またそこにいられたいた養豚されている方、またそれからハムをつくられている方、あるいは小山町で80頭のホルスタインを飼っておられる方などと意見交換をしたりいたしまして、また今は秩父宮の公園にまいりまして、雄大な美しい富士をモミジの向こうに見るといふそういう経験もしてまいりました。さらに仏舎利塔がございますが、そこから本当にもうこれ以上にないような美しい富士を仰ぎ見ることもできました。

きょうはそうした小山町、御殿場の風土の中にしっかり入り込んで、それぞれの代表の方々の御意見も伺いたいと。この間黄瀬川のところに行ったときにお目にかかった皆様方も来ておられるような、どこにいらっしゃいますかね。あそこに。どうもどうも、たくさんいらっしゃいましてありがとうございます。そういうことで顔見知りの方もいらっしゃるということで、充実した2時間になりますように、どうぞ御協力のほど、よろしく願いを申し上げます。

< 発言者 1 >

よろしく申し上げます。知事は小山町って静岡県が一番端の町と思っていせんか。小山町は関東圏から静岡県の玄関口として重要な町でもあり、名誉ある世界文化遺産の富士山と構成資産の富士浅間神社がある町です。私はこの構成資産の富士浅間神社で氏子青年会の会長をしている発言者1です。

この富士浅間神社は、イコモスの現地調査でも整備と保全について最もすばらしいという評価を受けた神社です。その須走地区では、氏子はもちろん、敬老会から保育園児まで地域全体で年間を通じて神社とのかかわりを持って生活をしております。そして須走小の児童は、毎年6年生が富士山頂までの登山を行っており、その歴史は大正時代から今もなお続いています。このような取り組みをしている小学校は日本で唯一であり、富士山を肌で感じて育っていると言っても過言ではありません。氏子青年会も神社にかかわる祭事だけではなく、積極的にまちづくりについて勉強し、地域の将来を考える中で、行政と住民が協力し合える提案ができればよいと思います。

まず世界文化遺産富士山についてですが、いろいろマスコミが話題にしています。今年日本一高い山に登った人の人数は約37万2,000人、その中で「文化遺産に登った」と言える人、一体何人いるのでしょうか。文化遺産登録において富士山の価値は、信仰の対象と芸術の源泉であるとうたわれております。これを意識して登ることに意義があるのではない

でしょうか。ごみ捨て禁止ではなく、ごみを捨てるのと罰が当たる場所、それが富士山なのです。富士山の保全には規制することよりも、信仰の対象だと登山者に認識してもらうことが重要なのではないのでしょうか。

須走口から登山をする方々には、富士浅間神社で参拝をし、身を清め、安全祈願をしてから御神体に登るという仕組みをつくっていききたい。そのためにマイカー規制のバスの中で、富士講や富士山の歴史を説明するガイドを流したり、タクシーの運転手さんにも案内ができるよう、勉強会をしていただいたり、資料館を見学させたり、地元と行政が協力できることはたくさんあると思います。

次に、構成資産を生かしたまちづくりについて。須走では富士浅間神社を中心に、門前町や参道のように町並みを整えたり、すばらしい富士山を遙拝（ようはい）するために、県道の電柱の地中化などが重要だと思います。また各構成資産には統一デザインの説明看板や、そこへ案内する共通の道路交通標識等がまだ整備されていない状態です。構成資産をすべて巡りたいという方に、気持ちよく周遊していただくためにも、県が先頭に立って積極的に整備していただければ、地元の意欲もさらに高まり、よいおもてなしにつながると思います。

さらに、未来を考えるまちづくりとして、一旦は外に出る子供たちが必ず帰ってきたいと思える、そんなまちづくり構想をしっかりと検討していくことが大切だと思います。例えば「富士山学習」のように、1日まちづくりについて学習する日を設け、子供たちに夢を語らせる場をつくり、それを大人が実現に向けて努力する、そういう仕組みができればすばらしい事業になると思います。

最後に、まちづくりの意味、富士山信仰などの歴史の認識を通じて、地域の文化を子供たちにしっかりと継承していくことが私たち地元住民の責任と感じています。時代の変化にもかかわらず、300年間姿を変えない雄大な富士の入り口の町として、昔から今、今から未来への考え方でまちづくりを展開していきたい。未来を担う若者たちがこの町に生まれてよかった、ここで育ってよかったと思えることが後世への遺産になるのではないのでしょうか。ぜひ県や町と協力して頑張っていきたいと思います。今日はこのような機会をいただき、ありがとうございました。

<発言者2>

少し柔らかい話をさせていただきます。私は今年3月まで、長年小山町民謡愛好会の会

長としてボランティア活動に取り組んできましたが、現在は愛好会の指導を担当し、民謡・舞踊の普及・伝承に努めています。小山町文化連盟会長になって2年目ですが、連盟の主催事業である町民文化祭を先月開催し、無事に57回目を終えることができました。今年はベテランの声や経験を生かしながら、若い会員の発想を取り入れ、継続と改革のバランスがとれた文化祭になったと自負しています。

私たち文化連盟は、子供や若年層の団体、高齢者中心の団体までが多彩な分野で構成され、さまざまな形で活動しております。代表的なのは若手と太鼓の活動で、町内のイベントはもちろん、海外でも小山町や富士山をアピールしています。

一方で、公共の文化施設はどこもそうだと思いますが、高齢者や子供については使用料が減免になるなどのメリットがあるのに比べ、伸び盛りの若手にはそのような恩恵がなく、文化活動の継承や、伝統文化の疲弊を招くのではないかと危惧しています。日本の伝統文化を伝承する団体や組織には、年齢を問わず、公共施設が利用しやすくなるような取り組みを県下挙げて行っていただければ大変ありがたいと思いますし、静岡県の文化向上にも有効であると考えています。

近年、学校でもダンスが必修となり、町民文化祭に出演した子供たちのダンスレベルの向上も実感しました。私たち民謡愛好会も、町内小学校の依頼にこたえて、運動会で行われる地元民謡の指導を行っておりますが、どこの学校も年に1度で、しかも指導時間が非常に短いために、動きを練習するのだから精一杯で、それぞれの地域の風土や富士山信仰など、歌や踊りの意味を説明しても、内容を理解したり、踊る楽しさを味わうところまではいかず、残念な気持ちになります。ダンスの苦手な先生がヒップホップを夢中で練習しているなんていう話を聞くと複雑な思いです。

小山町民謡愛好会では、学校の週休2日制導入をきっかけとして、平成7年に子供民謡教室小山校を立ち上げ、3歳から高校生までを対象に民謡の指導、発表の場をすべてボランティアで提供し、現在も続けています。こうした息の長い活動を経験した子供たちが、将来きっと民謡の伝承の担い手となってくれるものと期待しています。

また、今年は文化連盟会長として国内外の市町を訪問する機会に恵まれました。1つは金太郎が取り持つ縁で姉妹町となっている岡山県勝央町で、小山町長自ら文化交流についての御挨拶をされました。もう1つはカナダの姉妹都市ミッション市で、着物や踊りなどの日本文化を紹介し、現地の芸術家協会と文化交流の約束もでき、文化連盟に求められる役割の大きさを深く実感した次第です。富士山が世界の宝となり、国内はもとより、外国

からのお客様も増えることでしょう。

特に世界遺産となった富士山の構成資産を擁する須走地区や富士スピードウェイや、多くのゴルフ場、富士霊園などがある北郷地区は、新東名スマートインターチェンジの完成により、生活様式も大きく変わることは必至です。新しい時代を迎える小山町にとって、人と人とのつながり、人から人へと伝わる文化の力は、ますます重要となりますし、それが富士山の価値をさらに高めることにもつながると思います。

青年団など、昔ながらの組織が弱体化する中、伝統行事のあり方、支え方も変わってきています。町内の文化団体がそれぞれの特徴を生かした幅広い文化活動で、町の伝統と発展に寄与できるよう体制づくりに力を入れたいと考えています。御清聴ありがとうございました。

<県知事>

今小山町を代表する発言者1さんと発言者2さんからそれぞれ文化に、目に見えない心の文化、そしてまた実際目にし音に聞くことのできる伝統文化についてお話を聞きまして、大変いづれもごもっともだというふうにお聞きした次第であります。

特に富士山が世界文化遺産になったということの意味を、やはり登る人は知るべきであると。須走口から小山町では小学生、大正時代からですか、ずっと富士山に登るということを引き継いでこられたと。もう間違いなく、そこでは浅間神社の前でお参りをしてから登っていらっしゃるに違いないと思いますが、実際この世界文化遺産になったのは、今年の6月22日でありますけれども、申請書というのは英語で書かれているんですよ。

そして登録名は「Fujisan」と書いてあったわけです。そうすると向こうのユネスコの世界委員会を構成される委員の方々から、これではわからないと、だから少しつけ加えてくださいという御注文がございました。タイトルを変えてほしいと言うんです。英語で Sacred Place という言葉を付け足すべきだと。それからもう1つが Source of Artistic Inspiration というのを付け加えるべきだと向こうから言われて、そして Sacred Place というのは聖地という意味ですね。それから Source というのは味の素のソース、源です。Artistic というのは芸術、Inspiration というのは靈感です。芸術的灵感の源と。こういうのを付け加えるべきではありませんかと言われて、代表から日本の代表団に向かって、「それでよろしいですか」と言われて、「はい、それでよろしいです」と言ったんですよ。

つまり外国の方々から富士山は単なる自然の山ではないと、聖地でしょと。それからま

た芸術の源泉でしょというふうに言われて、そして正式名称は「Fujisan Sacred Place and Source of Artistic Inspiration」、それを日本語では文化庁の方が、富士山―信仰の対象と芸術の源泉というふうに訳しているわけです。

これは我々はそう思っていました。そして小山町でも皆そのように思ってこられた。それをしかし今回は外国の方々が富士山というのはそういうものでしょと言ってくださって、日本の方は、あっ、よくわかってくださっていましたねということで、もちろんそういうふうに書いていただいて構いませんということになったんですね。

ですから今、発言者1さんの言われた富士山というものを心と結びつけるというのは、これはもう日本人だけでなく、世界の人々にとっても共通のものになっているだけに、単に登るということではなくて、そのいわば神体山といいますか、霊峰にお参りに行くという気持ちをもっとしっかりと登る人たちにお知らせするというか、それを共有していくということが大事だと思います。

そのためには御提案がございましたように、行く道の電柱などを地中化するといったようなことも大事ですし、どなたにもわかりやすいように標識をつくるということも大切でしょう。もともと小山町の須走口は富士講のときの東の玄関口として、端っつとんでもありません、思っていないです、もちろん。そうなんですよ、関東平野から箱根を越えて、足柄を越えて登っていくと、そういうまさに入り口、玄関口という表玄関に小山町は位置しているということでございますので、これは広く共有するべきであるというふうに思った次第でございます。

そんなわけで今度は、発言者2さんはまさに文化連盟会長として、先ほど町長さんと御一緒に岡山県の勝央町に行かれたと、あるいはまたカナダのミッション市ですか、そこに行かれたと。カナダのミッション市に行って、ヒップホップを踊ってどうするんですか。そこではこういう美しいお召し物で日本の民謡を踊ってこそ、向こうの人に喜ばれるわけですね。

ですから、国際性を持つのは、アメリカや何かで流行っているものを物真似してやるのではなくて、私どもの先人がずっと継承してきたその技をお見せするということになると、それが例えば簡単なものと、向こうの人も一緒に、自分も着物を着たり、そのような柔らかい踊りを一緒に輪になってやってみたり、例えば盆踊りなんていうのは、一緒にぐるぐる回っているうちにだれもがやるようになりますでしょう。

ですから、例えばこの間私インドに静岡県のパRのためにいったときに、二十数カ国か

ら来ておられまして、それぞれ文化のタベというのがあって、それぞれ自分たちの文化を言うということになるわけです。そのときに私どもはゆかたを着たり、こういう法被を、今御殿場市長が来ておられるような法被を着て、だれもがすぐに、我々も二、三十人行ったんですけれども、踊れるのは炭坑節ですよ。「月が出た出た」といってね、簡単でしょう。そうすると一周した後、入れてくれというわけです。ですから、いかに我々の持っている一番そういう簡単なものから、発言者2さんがなさるような非常に高度な民謡や舞踊、こうしたものに至るまで、これは実は世界性を持っているんですね。

こうしたものはこれからつくるものじゃなくて既にあるものですから、これが財産なわけです、富士山と同じように。ですからこうしたものこそ、かえって国際性を持つと。だから子供たちに何を教えるかということをお二人とも言われました。何を継承していくべきかと。だから今、北は北海道から南は沖縄に至るまで、同じものを教えようという、それは日本が1つの国になるために必要だったんですけれども、一方で富士山はここにしかない。また須走口の伝統はここにしかないというものでありますから、それをやっぱり教えるべきだということですね。

ですから私はそうした民謡やあるいは富士山にかかわる信仰のみならず、こちらの産業、あるいはこちらの産物、こちらの風土、黄瀬川に残っているようなそういう伝承といったようなものを通して日本を見る、あるいは世界を見ると。だから地についたものを子供たちに教えていくことが大切だというふうにも思っております。

ですからこれは「地域学」と言ってもいいと思うんですが、例えば富士山というものを1つとっても、富士山は火山ですから、たくさんの火山の中での富士山というふうに見ると、ほかの国の火山と比較をするということにもなるでしょうし、富士山が一番日本で高い山だとなれば、韓国で一番高い山はどこですかと、そうすると漢拏山（ハルラサン）だと。2,000メートルもないじゃないかということで、山のことについて、富士山を通してほかの国の山のことを知るとか、あるいはどうしてこういうところで大きな地震が起こるんだと。

そうすると下の方で岩盤が動いていると。その岩盤というのがユーラシア大陸のプレートとか、あるいは北米のプレートとか、太平洋のプレートとか、それがすぐ駿河湾の近くでランデブーしているというか、合っているということになれば、一気に視野が大きく広がりますけれども、自分たちがそのすぐ近くにいるということは実感ですので、そこを通して世界を見ることができると。

ですから、今お二人がおっしゃったように、実は全員がそれぞれの分野で先生になり得るのだと。子供たちにとって学校の先生だけが先生じゃないんだと。自分たちが伝えるべきもの、今我々が継承しているもの、それぞれの分野で若い世代に継承していくということが大切だと。それが大人の役割でもあるということで、大変大事な御提言もあったと。

まずは差し当たって海外に対しても恥ずかしくないような標識や、あるいは景観というものをつくっていくというようなこと、そして学校でもダンスに対して舞踊といいますか、踊りというか、そうしたものも同じように大切だという気持ちを地域の人が持てば、地域全体が学校になっていくというふうに変わっていくんじゃないか。それが私は望ましいとすら思っています。

須走口で富士講をやっている江戸時代には、皆、寺子屋だとか、お父さんが、おじいちゃんが伝承してきたものを子供にやっているから、立派に立て札が出て読めるし、かわら版が出て読めるんですよ。その識字率、文字を読んだり書けたりする力は世界で最高でしたよ、当時。何を教えたらいいかということは、親なら子供に対してわかっているはずです。

ですから自信を持って、小山町、こういう立派な方がいらっしゃるので、それぞれの方々の分野で子供たち、青年たちに対して、自分たちは背中を見られても恥ずかしくないと、富士山に対して自分は決して恥ずかしくないような生き方をしていると。富士山に対して恥ずかしくないような地域をつくっていくと。富士山に対して恥ずかしくないような国づくりのモデルをつくっていこうというくらいのつもりで、日本の宝であり、かつ世界の宝であるというそこを預かっている者として、そういう意味で、学問と教育と文化の自立というのを今日は聞いた感じがしましたね。ありがとうございました。

< 発言者 3 >

御殿場市地域包括支援センター富岳の発言者 3 です。よろしくお願いいたします。

私の勤務しています地域包括支援センター富岳は、御殿場市の委託を受けまして、社会福祉法人富岳会が運営をしております。地域包括支援センターとは、介護保険法で定められました専門機関で、担当する圏域で生活をされている元気な高齢者の方から、介護や支援が必要な方まで、幅広く高齢者の方の総合相談所として機能しています。

私たち富岳の職員は 4 名いるんですけれども、電話の対応だけではなくて、1 カ月に 200 件から 300 件のお宅を訪問しまして、実際に高齢者の方の悩みや困りごとの相談に乗るよ

うに対応をしております。そんな中で、日々の業務の中で実際に私たちが高齢者の方から聞いたこと、地域の方からの声、それらを踏まえて今日は貴重なお時間をいただきましたので、私の思いというのを知事にお伝えしたいと思っています。よろしくお願いいたします。

地域包括支援センター富岳は、御殿場市でも裾野市に近い神山というところに所在しておりまして、富士岡地区を担当圏域としています。富士岡地区の紹介を少しさせていただきますが、人口は約1万7,000人、65歳以上の方の人口がおおよそ3,400人で、高齢化率は約20%程度の地域となっています。その中で介護保険の認定を受けている方というのは、65歳以上の方の人口の約13%、約450人です。

介護保険については、新聞等で今騒がれているとおり、2年後の法改正では仕組みがかなり大きく変わろうとしています。国の方針では、今後介護保険のサービスを介護保険だけに頼るのではなくて、一部市町や地域で独自の事業を展開して行って、高齢者の方の健康をより維持、向上していくようにという方針を出しています。地域ごとに特色のある事業を展開するということは、とても魅力的で、私たちも頑張りたいと思っているところなんですけれども、財源があって、事業所数もかなり多くて、かつボランティア活動の充実した市町と、財源が厳しく、ボランティアの活動なども少ない地域では格差が生じるということが懸念されています。

ここで1つ目の知事へのお願いになるんですけれども、国が掲げています地域支援事業の運営や財源について、市町に丸投げということではなく、県でも資金面の協力を考えていただきたいということになります。例えば地域の公民館や空き家を利用して地域のボランティアの方や事業所が協力し合って、趣味活動や運動教室を展開していくといった高齢者居場所づくりというのが御殿場市でも必要だと私は感じています。核家族化が進んで、昼間一人で過ごされている高齢者、人と触れ合って会話をして笑う、こんな当たり前のことができなくて、おうちに閉じこもっていらっしゃる高齢者の方が非常に増えているんです。一人でも多くの方が外に出かける機会を設けて楽しむ時間を持つ、そんな機会を私たちはつくりたいと思っています。

また65歳以上の方を高齢者とひとくくりにするのは、かなり無理があるように感じています。年齢層や性別、参加者の方の特技を生かせるような内容を考慮して、そういった居場所づくりを考えていく必要があると思っています。しかし、そういった理想的な居場所をつくっていくには、やはり事業を始めるための資金、事業を継続するための運営費とい

うものが必要になってきます。

特に私たちが担当している富士岡地区では、公民館まで片道1キロ以上歩かなければいけないというような高齢者がたくさんいらっしゃいます。高齢な方や体の不自由な方、少しでも公民館を利用していくには、歩いて来てくださるのではなかなか無理があります。そうなってくると、そういったお茶会などに参加してもらうにも送迎が必要になってきます。場所の確保もそうですし、そこで運営をしてくれるスタッフの確保、その後適切な運営をと考えていくと、最初から赤字覚悟で、「はい、その事業を手伝いますよ」と手を挙げてくださる事業所や団体はないと思います。

今静岡県で実行されております「ふじのくに型支援事業」のように、先進的な取り組みをする市町には、ぜひこういった居場所づくりをするに当たっての資金面の支援というものを検討していただきたいと思っています。

次に2つ目のお願いになるんですけども、JR御殿場線の富士岡駅のバリアフリー化についてです。昨年、御殿場市全域で4カ所の地域包括支援センターが協力し合って、交通手段のアンケートというのを実施いたしました。富士岡地区の要望で最も多かったのは、富士岡駅の階段を何とかしてくださいということでした。

その際、御殿場市からJRさんの方に確認をしていただいたところ、1日3,000人の利用客があれば検討しますという非常に寂しい回答でがっかり、地域の高齢者の方とともに肩を落としてしまいました。

富士岡駅の階段が解消されれば、御殿場駅方面はもちろん、沼津や富士、静岡方面に買い物や習い事、旅行にも行きたいという高齢者の方がたくさんいらっしゃいます。閉じこもりを予防して元気ではつらつとした生活を維持していただくためにも、また地域の活性化にも、さらには高齢な方の今、車の運転による交通事故が非常に問題になっているんですけども、そういったことを減らすためにも駅のバリアフリー化というのは、これから必要になってくると思います。

知事をお願いするには、大変無理なお願いだとは承知しているんですけども、富士岡地区の高齢者の方の切なる願い、「もう発言者3さん、こういう機会があったらぜひ言ってきてください」ということで、3,400人の方を背負って、きょうはここに上がらせていただきましたので、知事をお願いをさせていただきました。どうか、すぐにでなくても、一歩前進するような御協力をいただければ幸いに感じます。

あらゆることを御殿場市だけで解決して、市や地域で支えていくということには限界が

あると思います。ぜひ資金面を始め、さまざまな面で静岡県のサポートをお願いしたいと思っています。これからも包括支援センターみんなで頑張っていきます。ぜひ知事も御協力をお願いいたします。きょうは御清聴ありがとうございました。

< 発言者 4 >

こんにちは。有限会社勝又製茶の発言者 4 と申します。よろしくお願いいたします。

本日は知事さんと語ろうの会へ御縁があり出席する機会をいただきまして、誠にありがとうございます。

お茶との関わり合いは御先祖様が元禄 11 年より御殿場でお茶栽培を始め、今年で 315 年、私で 18 代目となります。県の御指導、御支援をいただきながら、茶園 3.6 ヘクタールと、F A 茶工場、直売店を営んでおります。平成 12 年に有機 J A S 法が施行されましたが、それ以前より有機栽培に取り組み、環境に優しい農業に徹し、昔ながらの自然と共生した環境保全、自然循環のお茶づくりに励んでいます。現在、生産と製造の有機 J A S 認証を継続中です。その他カナダ認証、ヨーロッパ認証、アメリカ認証も取得しております。今後、各国の認証ノウハウをもとに信頼の熟成を図り海外への強化をし、これから茶園を増やしていきたいと計画しておりますので、県と地域の皆様の御協力をお願いしていきたいと思えます。

本日は地域における現状の問題点と、取り組んでいることをこの場をお借りしてお話したいと思っています。現在、御殿場市、小山町、裾野市のお茶産業は、茶価の低迷化、高齢化、後継者不足、少子化等により、今後は危機的な労力不足状態であります。県下でも同様な状況下であり、また農業全般を見ても同じ状況にあると思えます。

今後、静岡県茶業は生産者 30%、流通業者 50%、関連業者 30%が、自然淘汰的に減少するだろうと予想する人もおります。静岡県の茶業は地場産業の優等生で、産業王国を守ってきましたが、守り切れなかったということのないような施策が必要であると思えます。当地域は大茶産地ではなく、なおさらに茶業低迷等の影響を受けやすい状況にあります。そのため、耕作放棄地や刈り捨てなどの問題に直面しており、早急な改善策を見出す必要に迫られている状況です。

そのような中、富士山と日本食が世界遺産登録となり、昨年からは先駆けて御殿場・小山中核農業協議会茶生産部の取り組みとして、会員の皆様と東部農林事務所、市役所、農協が一体となって、「富士山山頂熟成茶」として試験的に実験と販売を開始いたしました。厳

しい環境と気圧の関係でしょうか。今年も山開きの2カ月間の熟成のお茶の味は、奥深く、まろやかに感じられました。

そのほか、御殿場、小山にはコシヒカリ、ワサビ等もございます。これらを含め、富士山からの直接の伏流水と自然でできた日本食ブランドとして、世界に発信・展開できる今がチャンスだと思います。2020年の東京オリンピックも見据え、観光や宿泊、世界各国に対応した食事、配慮、サービス、販売もできるものなど、様々なおもてなしの対応ができるよう整備も早急に必要と思います。

現在、少数微力ではありますが、国境を越え、多業種の仲間と東部管轄の農林関係機関の方々と一緒に真剣にぶつかり合い、さまざまな話を進めております。もっと仲間が大勢いれば、多くのアイデアと大きな力が生まれ、新しいことも実現可能になると思っていますので、ただいま賛同し、協力していただける方を募集中です。

ここからは先ほど述べた内容にも通じることはありませんが、現在私が取り組んでいることを御紹介させていただきます。現在、静岡県ではユニバーサルデザインの先進県を目指し、親しみやすく「ユニバーサル園芸」という名称を採用しています。私も静岡ユニバーサル園芸ネットワークの一員となりました。ユニバーサルデザインとは、年齢や性別、身体、国籍など、人々が持つさまざまな特性や違いを超えて、すべての人に配慮したまちづくりやものづくりを行うというすばらしい考え方だと思います。

実はこのような考えに至ったのは理由があります。私の後継者の事情もありますが、私の長男は4歳のとき、自閉症と診断され、現在御殿場特別支援学校でお世話になっております。おかげさまでゆっくりですが、優しい息子なりにたくましく成長しております。保育園、小学校、中学校からの先生や友人、保護者、親戚の皆さんにも節目節目の選択で迷ったときに、よき御指導をいただき、振り返れば感謝の言葉しか思い浮かびません。

恩返しという意味でも、「ユニバーサル園芸」という共に助け合い、思いやりのあるすばらしい社会や文化の熟成といったお手伝いができ、お役に立てるのであれば、一中小企業として真剣に取り組むべく勉強中でございます。これから多くの皆様と連携し、御指導、御協力いただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

最後に、これは先代の社長、こちらのおやじの意思として受け継ぎ、代弁をいたします。まだ生きています。(笑) 静岡県茶業は今日までの実績と、積み上げられた茶業関係のインフラが整備されており、また特に優秀な人材が多くおり、一朝にして崩れることはなく、茶業関係者が総動員で英知を出し合えば、必ず回復すると信じています。私も微力ながら

残りの人生は福祉と連動した茶業振興に努力していきます。

共生より上の言葉に創生があります。お互いに生み出すことのできるユニバーサルデザインを取り組みへの今後の創生に期待します。以上、私も努力を重ね、創生になれるよう頑張りますので、今後も静岡県の御指導、御支援をお願いし、終わりにいたします。ありがとうございました。

<県知事>

今回は若い御殿場のリーダーお二人からお話を受けることができまして、発言者3さんはお若いのに看護師、主任介護支援専門員、社会福祉士の御資格をお持ちだということで、こういう専門家が地域包括支援センター富岳の所長として、大事な今足りないことについての要望をなさいましたので、これはできる限りお力になりたいと、申し上げておきたいと存じます。

その居場所を探さないといかんということなのですが、閉じこもりとか引きこもり、ひとりっきりになっているということがよくないというのは、発言者3さんの言われたとおりでありまして、静岡県は健康寿命が日本一、御存じですよね。そして健康寿命というのは高齢になっても日常生活に支障を来さない人たちのことを言いまして、それがWHO、世界保健機構の新しく作り上げた、長寿というのは単に長生きだけではなくて健康でなくちゃならぬと。そして日本の厚生労働省が全国を調べたところ、日本で一番健康寿命が長いのは静岡県だと。

それで私どもはお茶も、それから食材もいろんなものに恵まれておりますので、コホート調査、たくさんの方の追跡調査をしてきたんですよ。そうしますと、長生きされている方は食材に対して関心がきちりとお持ちであると。2つ目は、軽く運動を継続されていると。それからもう1つ、3つ目が大事でして、社会参加をされている方がやはり長生きされていると。つまり引きこもりをしていない、閉じこもりになってないという、だから外に出るといことは、やっぱり健康寿命にとっても大事なことなんですね。

ですからおっしゃるように居場所をつくるということはすごく大事なことだと。そこに財政支援のようなものがないとできない場合には、それをすることが実は最後は寝たきりになって、かえって余計にお金がかかることになるので、むしろ元気な人を元気に、もっと継続してお互い元気を出し合うような創生ですかね、共生から創生へというそういう方向に持っていくことが大事なんですね。

今日は実は御殿場の秩父宮様の公園に伺いましたところ、園長さんがいらっしゃるんですが、あとみんなボランティアですよ。ともかく大体皆、後期高齢者と言われるような、皆元気です。そしてそれは多くの人たちのお役に立っているということで、今日7、8人会いました。そのこと自体が「ありがとうございました」と言われてうれしいということで、もちろんそこで仲間もいるし、そして散歩するから軽い運動になっているんですね。ですから、ただ世話を受けるだけでなく、積極的に何か自分でできることをしていくということが元気のもとになるということですね。それはおっしゃるとおりであろうと思いました。

それから富士岡駅の階段をなくして、エレベーターなり、エスカレーターなりということですね。3,000人と言いましたか、なるほど。函南町では5,000人と言われたんですよ。5,000人の毎日使う人がないといけられないと言う。それで交渉しまして、三島の隣の函南町ですね、今エレベーターをつける工事、終わったか終わってないか。だから押せばできると。

それから発言者4さん、元禄の討ち入りのころから18代目というので、お父上もそんなに簡単に滅びるものではないというふうに言われているので、こんな元気な青年ですから、19代、20代とつながることは間違いなく確信ができたところではありますが、にもかかわらず、お茶を取り巻く状況は厳しいということはそのとおりです。

しかし、これは守る姿勢ではなくて攻める必要があると。そのときに発言者4さん御自身がヒントを言われましたけれども、富士山というこれを活用すればいいと。その富士山の山頂での熟成茶、これが飛ぶように売れたわけですね。しかも高いんですよ。むしろ高いから売れると。富士山のように高いんだということで、いや、値段のことでしょ。その値段も高いから、しかもまろやかなんですね、味がいいということであつという間に売れたということでございます。

ですから、こういうブランドをつくっていくと、その富士山というものを活用すると。そして富士山の恵みがワサビになったり、水菜になったり、もちろん御殿場ですとおいしいお米になったり、お酒にもなるし、地ビールにもなるということで、そういう富士山を生かすということが大事だと。

それからもう1つ言われましたね。和食が世界無形文化遺産になると。実はまだなっていないんですよ。来月なるんです。確実になるでしょう。それでこれも活用した方がいいと。どう活用したらいいかと。和食というのは、これを推薦文書いた人がいます。推薦文を書

いた人は静岡県の大学の学長ですよ。先生がお書きになられて、推薦文を、それはもっともだと。

日本の食文化というのは、新鮮なもの、旬なものを大事にしますでしょう。日本のものは食材をそのまま見せると。なぜかというと、採れたばかりものだから。色がつややかできれいだ。だから見てきれい、腐ってないのがすぐわかる。新鮮であるということがきれいであるということの意味するので、見て楽しむと同時に新鮮だから健康にいい、若々しいものを取り込むんだということで、そういう意味で和食というのはすばらしい環境の世紀に合った食文化だということで、もうほぼ確実に来月の12月2日から1週間かけてアゼルバイジャンという国で審査が行われてなります。

これを書いた人は、一汁三菜だとおっしゃったんです。今日も「みくりやそば」と、おいしいお味噌汁をわらびの会の方につくっていただきました。ごはん和三菜がつく、3つのおかずがつくと。これが季節によって違うでしょう。実はこの一汁三菜の考え方はお茶からきているんですね。先生は実は食文化の専門家であるよりも、もっとすごい専門家が、お茶の文化なんですよ。

お茶は一杯飲むだけのお茶もありますけれども、茶の湯ということになりますれば、これはちょっと辛気くさいような儀式になってはおりますけれども、お庭のあるところで待合でまずお茶をいただいたり、それから路地を歩いて、きれいなお庭のあるようなところで、そして数寄屋造りという建物で、中に入ると器もしっかりしていて、そして掛け軸があったり、お花を生けてあったり、そしてごはんもいただいて、お酒も飲んで、最後にお濃茶をいただくという、ですから食文化というのが、お庭だとか、それから器や掛け軸や等々の、あるいは花瓶であるとか、あるいはお道具であるとか、そういう芸術に囲まれているわけですね。だから茶の文化の方が和食文化よりも範囲が広いわけです。

だから和食文化が世界の無形文化遺産になるならば、お茶の文化が世界の無形文化遺産になることは確実です。そのことを一緒にやりませんか。その前にまず茶どころというのがたくさんありますでしょう。静岡は全部です。浜松からこの御殿場まであちらこちらで全域でお茶を栽培しています。こういうのを何と言うか、茶どころの中の茶どころ、茶の都というんですね。茶の都だと、静岡県は日本の茶の都であるということで、茶の都の茶の文化を世界無形文化遺産にするというふうにしていきますと、これはお客さんが来られると。だから攻めていくということで、まず茶の都憲章をつくりましょう。

例えばお茶というのは、この間世界のお茶まつりをしました。春の祭典、秋の祭典しま

したけれども、春の祭典で3万人弱、秋の祭典で10万人を超えましたよ。13万人もの人たちが内外からお越しになって、20カ国から来ています。ですから静岡のお茶が、例えば京都でやっているのは、あれは国民お茶祭りですね、うちは世界お茶祭りですからレベルが違うんです。

だからここで10万人の人が来ておられるというわけで、茶の都、これは文化と産業と、それから学問、学術の研究、この3つからなっているんです。茶の文化を守って育てていきましょうと、お茶の産業を一層発展させましょう。それから茶の機能、効用ですね、健康にいいというそれを学んで健康になりましょう。

お茶はおもてなしでありますから、お茶のおもてなしの心をお茶を通して育てましょう。お茶は一服のお茶で平和になりますから、お茶を通して平和な社会を築き上げましょう。茶の都に住む静岡県民は毎日お茶をありがたくいただきますというふうなことで、茶の都憲章をつくって、そして茶の文化を世界の無形文化遺産にやっていくと。その中に食文化も入っている。

この食文化も、向こうから来て新東名に入った途端に景色は違う、食べるものも違う。そしてあちらこちらに食の都の仕事人といいますか、レストランがあることが望ましいですよ。そしてそれぞれ個性的にやる、チェーン店ではないレストランといいますか、そういう食べ物を楽しめるところがあるのが望ましい。なぜかというと、まず景色がきれいでしょう。食材はそれぞれ味覚が違うので、それぞれのシェフの合った、料理人の合った味覚で勝負すればいいと。そうすると私は食の都というイメージもでき上がってくると。食材の数は日本一です。そしてその食材を大切にするのが和食文化です。それを最もできるのがここです。

そしてお茶もお酒も地ビールもここでしょう。ですから関東平野のビルの森から出てきたら、こちらには本当に山と水が文字どおり豊かな別世界に入ってきて、小山町から入って、御殿場に入ってきて、そして四季折々違うものを楽しむというふうにすればいいということで、18代目、大丈夫です。これは18代目と一緒に20代、25代というふうにつないでいきたいものだ。それからお年寄り健康寿命を延ばすということのために、できる限り閉じこもらないような形の支援を一緒にしていくというのが望ましいと思っておりますので、そのための支援を惜しまないようにしたいというふうに存じます。ありがとうございました。

<発言者5>

ただいま御紹介いただきました発言者5といたします。

それでは簡単に私の活動している「みくりやそば」あなたのそばで振舞隊の活動をここで御披露させていただきたいと思います。まず私、隊長をさせていただいているんですが、あそこに名誉隊長であられる御殿場市長が名誉隊長ですので、私の行くところ、必ずこの法被を着て登壇してくれということをお願いして、宣伝させていただいてもらっています。

知事にお伺いしたいですけれども、先ほどお昼御一緒させていただきましてありがとうございます。「みくりやそば」を実はお振る舞いをさせていただいたんですけど、知事、「御殿場みくりやそば」って御存じでしたか。

<県知事>

名前だけ知っていましたが、食べたことなかったの、もう1滴も残さず全部いただきました。

<発言者5>

ありがとうございます。お味はどうか。

<県知事>

おいしかったです。

<発言者5>

ありがとうございます。そのときにざっと説明すればよかったんですけども、私こんな資料いっぱい持っているんですけども、実は原稿も全くなくて、つたない説明かもしれないですけども、簡単にここで「みくりやそば」を説明させていただきたいと思います。

まず「御殿場みくりやそば」なんですけれども、古くから御殿場地方の農家とかそういうところでおもてなし料理として振る舞われたものでございます。振る舞うときには、皆さん手打ちで振る舞って、それぞれお祝いの行事のお品にしていたと思います。

御殿場の方なので、皆さんも御存じかと思いますが、改めて知事に御説明するということで、「みくりやそば」の特徴として、つなぎに水を使わないで山芋を使って練って

おります。主に山芋の独特の香りがする風味豊かで、麺はぬめりがほどよく、滑らかな味わいとなっております。麺は太く、そんなに太くはないんですけれども、すするといふ感覚ではなくて、皆さん多分御存じで、ぼそぼそとすくうというか、すすって流し込むように食べるのが習慣でございます。基本的に汁は甘めの汁に鶏肉、人参、椎茸を一般的に入れるのが具材となっております。

一応定義はありまして、3つほどありまして、御殿場でつくっている、御殿場の水を使っている、それともう1つはつなぎに山芋を使っているという、この3つの定義で一応「みくりやそば」というふうに認定をさせていただいております。

皆さん御存じかと思うんですけれども、「みくりや」というのはどういうゆえんかといいますと、昔この辺は鎌倉時代ころからですか、御厨地方というような呼び名があって、そこでついた名前が「みくりや」と。明治に、実際には廃藩置県の明治2年ですか、そのときには御厨村というのが正式名称であったところも記されている次第であります。

それで我々じゃ実際その「みくりやそば」ってどんな活動しているんだということになるんですけれども、実は「みくりやそば」は市長の肝いりで立ち上げた団体でございまして、平成24年2月に御殿場市、商工会、観光協会、あと青年会議所、婦人会、地元のボランティア団体などで結成された「みくりやそば」の団体です。実際に私も仕事をしておりまして、日中はそっちの方をやって、主に週末になるとそういったところのイベントに参加して、御殿場のPRに努めております。

「みくりやそば」は地元から御殿場地方に伝わるそばを皆さんにその由来や風習、御殿場の歴史などにたくさん触れていただくことによってPRをし、観光客を誘致など、市内で、実は御殿場の観光・交流人口というんですか、何か静岡県で2番目らしいですけど、1,300万人ほど御殿場に観光に来られているそうです。ほとんどがアウトレットだそうです。

その人たちをぜひとも呼び止めたいということで、我々はいろんな各地イベント事があるところや、いろんなところに出向いて、この「みくりやそば」をPRしています。皆さんも多分、例えばどこか地方へ行ったときには、じゃここのご当地のおいしい食べ物何だろうねとか、ここでは何食べようねとかという話をされますよね。それと一緒に、やっぱり御殿場に来たら何がおいしいのというのが結構多かったんですけれども、そのときに「みくりやそば」というふうに答えられるように、一生懸命今PRしているところでございます。

振る舞い店というのは、御殿場で現在33店舗があります。認定店と言われるところなん

ですけれども、リーフレットをつくりまして、いろんなところで食べられますよというような案内を各地イベント、例えば直近で言うと太平洋のマスターズでもお店を出しましたし、あとは静岡であった大道芸ワールドカップにもブースで出させていただきました。一昨年は福島にボランティアでおそばを 2,000 食振る舞いに伺わせていただきました。大変喜ばれて、本当にまた来てくれと、先方の市長さんからもお喜びの言葉を頂戴している次第でございます。

それで、その 33 店舗の登録事業店という形でこれに載せさせていただいて、皆さん来られたときにはこの中の何店舗かでも結構ですし、1 店舗でも行っていただければ、その観光交流人口が滞留している、少しは御殿場に寄与できるのかなというふうに思っております。

現在では協力事業所として 4 社、例えば食堂なんかにも「みくりやそば」という形で入れさせていただいているのもありますし、リーフレットの最近では企業サポーターという形をつくりまして、このおそばの中に裏面には皆さんも使ったことがあると思う小田急箱根高速バスの時刻表なんかも入れて、相互 PR を連携しようよというような形で小田急さんと協定したりだとか、富士急さんとも協定して、バスの広告なんかにも「みくりやそば」を入れていただいているような活動も盛んにしております。

私ら振舞隊はいろんなところでそういった御殿場の PR をして、結果的には御殿場のまちを PR して、御殿場に来ていただいた際には「みくりやそば」を食べていただいているというような形で活動をしているんですけれども、いかんせんボランティア団体ですので、数に限りがあるといえますか、人数が非常に足りない状況が多くあります。

ぜひとも御殿場市民、小山町の方もいらっしゃるかもしれませんが、御殿場市民の皆様におかれましては、ぜひ市民一人一人が PR していただければ、もっともって御殿場のまちは潤うようになると思いますし、もっともって滞留していただくような形になるかと思っておりますので、ぜひ御協力の方をお願いしたいと改めてここで申し上げさせていただきます。

それで、せっかくなので、私が普段思っていることを 2 点ばかり知事に質問させていただきたいと思っております。1 点目は、「みくりやそば」を含めて観光とスポーツに関することをお伺いいたします。御承知のとおり、世界文化遺産になり、2020 年にはオリンピックも開催が決定いたしました。静岡県もこれを機に観光とオリンピックのキャンプ地誘致推進などお考えになると思います。御殿場も観光ハブ都市構想という市長の構想のもとで、同じ

考えだと思っております。

現在、御殿場には観光事業として我々「みくりやそば」の振舞隊もそうなんですけど、積極的に取り組んでいるところなんですけれども、当地域における知事のお考え、また具体的な事業としては、例えばJOCのナショナルトレーニングセンターの指定を受けている馬術センターなども御殿場にはありますので、そういったところへのオリンピックを控える競技のナショナルトレセンの誘致とかできないか。このような場合、静岡県はどのような協力が得られるのかということが1点。

それともう1点は福祉の関係なんですけど、公的医療機関が残念ながら無い地域が、静岡県では御殿場と小山地域です。現在では民間の病院さん、開業医の皆様をお願いしているような状況でありますけど、今県東部地域へ医大の誘致ができれば、東部地域の医療は大きく向上する、変わると思っております。

しかしながら、反対の意見も多々あるようで、医学部が設置されれば、医療現場から医師とか看護師の引き抜きで医療崩壊があるんじゃないかなんていうような話もちらほら聞いておりますが、先日の知事の定例会見で、そういったことは崩壊させない方向でやるといような、誘致実現に改めて強い意欲を述べられたというふうに思っております。私たちは大変心強く感じるのですが、今後どのように進められるのか、その2点、知事のお考えをお伺いしたいと思います。以上でございます。御清聴ありがとうございました。

<発言者6>

最後になりましたが、ごてんばアート・クラフトフェア実行委員の発言者6と申します。

御殿場の中央公園で毎年1回なんですけど、ごてんばアート・クラフトフェアというお祭りを開催していて、今年の9月で5回目を迎えることができました。友達有志10名で始めたクラフトフェアなんですけれども、私は最初当日ボランティアという形で参加させていただいて、2回目から実行委員として活動させていただいています。

実行委員の目標として、まず一番最初は全国のアーティスト、クラフト作家さんを応援したいという気持ちで始めました。その後、子供たちに夢を与えたい、10年後、20年後のアーティスト、作家さんを育てたい。最後3つ目に静岡の東部ライフを楽しみたいということで、この3つで実行委員は毎年完全ボランティアで活動しています。

言葉だとなかなか説明がつきにくいので、ちょっとパネルを用意したので。

(以下、壇上でパネルを紹介しながら発言)

これがごてんばアート・クラフトフェアのチラシです。中央公園を隅々まで使ってイベントを企画して運営しています。

富士山を臨むことのできる御殿場中央公園、この芝生エリアに全国から約 170 組のアーティスト、クラフト作家さんが集まって、自分たちの作品を説明しながら販売してくれます。

朝の早い時間から多くの方々に来ていただき、にぎやかなにぎわいができます。

このテントが作家さんのブースになっていて、来場者さんがいっぱい来てくれている様子の写真です。

最近では名古屋方面、東京方面のお客が多いのが特徴になっています。

当日は、ただイベントを楽しむだけでなく、東日本大震災のチャリティも行っています。作家さんの参加者さんから、作品であるはがきを無料で寄附していただき、それを私たち本部にて 100 円で販売する「届け、みんなのはがきやさん」というタイトルのチャリティ募金をやっています。あとマスコットキャラクターの「くらのすけ」による募金箱による募金活動も 2 種類行っています。こういうイベントができるありがたさや、日常のありがたさをかみしめつつ、静岡でも起こり得る地震、津波、噴火等の明日は私たちという気持ちも胸に秘めながらというか、胸にとどめながら活動しています。これが「届け、みんなのはがきやさん」ブースになります。

ただ、単に作家さんが物を売るだけでなく、ごてんばクラフトフェアの特徴である作家さんによるワークショップも充実させています。作家さんが子供たちに物のつくり方とか、手の動かし方とかを指導してくれて、子供たちが楽しそうに作業している様子です。

去年からなんですけれども、御殿場高校のデザイン科の生徒たちにもワークショップをお手伝いいただいて、高校生から子供たちにいろいろな物のつくり方の指導をしてもらっています。

あと、先ほども言いましたように県外のお客が多いので、「くらのすけ横町」と題しまして、県東部や富士山周辺の物産、お土産を販売するストリートもあります。そこで今日来ていただいている振舞隊の皆様にもそばを振る舞っていただいたりしていただきました。せっかく来ていただいたので、おいしいものとか珍しいものを県外に持って帰っていただきたいなという作戦です。

お店がいっぱいあるので、どうしてもお腹がすいてきてしまうので、公園の噴水周辺で

は一日中クラフトフェアを楽しんでいただけるように、おいしいお店だけを集めたグルメフード広場をつくってあります。普段露天していないフレンチレストランやおいしいカフェなどに直接声をかけて出店していただいています。

グルメフード広場のそばに休憩しながら、ごはんを食べながらとかお茶をしながら、休みながらも楽しんでもらえるようにライブスペースもつくっていて、地元ミュージシャンやゲストミュージシャンに音を出していただいています。今年名古屋のアーティストに来ていただきました。音の周りにはみんな休憩しながら楽しんでもらえています。今年はその中に最年少のおむつをした男の子が打楽器担当で出ていました。

ほか、会場内にアート作品を並べたアート展示を行ったり、今年からのチャレンジ企画なんですけど、広い芝生スペースで大人の作家さんに混じって、子供たちの作家さんに出展してもらいました。自分たちのつくったものを売るという体験をしてほしく、お店側の子供とお客さんの子供との触れ合いが、見ていてとても微笑ましかったです。これが子供たちの出店で、マツボックリとか卵とか折り紙で自分の作品をつくって販売してくれました。学校も勉強なんですけれども、こういうのもすごく勉強になるのかなと思って、好評だったので来年もぜひ続けたいと思います。

以上が盛りだくさんなごてんばアート・クラフトフェアなんですけど、回を重ねるごとに公園の楽しみ方が、来場者の皆様が上手になっているなど感じていて、芝生でずらっと人が木陰で寛いでいる写真なんですけど、アメリカのセントラルパークのようとか、イギリスのハイドパークのような公園の使い方になるといいよねみたいなことを実行委員でよく話していたんですけど、何か最近では結構こういう景色が自然にできていて、すごい自分たちも何か楽しんでもらえているなど感じています。

これがステージの前で踊る子供の写真なんですけど、この感じがとてもたまらなくて、音が出るとつい体が動いちゃうという、何かこのフェアをきっかけに本当に世界で活躍するアーティストとかミュージシャンが出ちゃうんじゃないかなと勝手に思っています。

あと、これ3世代で芝生の上で寛いでいる写真なんですけど、こういうすごく景色がとてもよくて、自分たちも1年間企画しながら続けているというか、開催の2日間でとても楽しくて、実行委員自ら企画しながらも、いろいろな刺激を受けています。

最後、キャラクターの「くらのすけ」と毎年来てくれる御殿場市長の写真です。

アート・クラフトと観光というのは、すごく遠そうな気がしているんですけど、自分たちのやったこのフェアによって県外からの来場者が増えているということを実感して、す

ごく可能性があるのかなと自分たちも感じています。

今回こういう知事とお話しできる機会をいただいたということで2つ、ちょっと自分の妄想なんですけど、知事に何かしていただきたいというよりも、一方的な話になっちゃうんですけど、自分の体験で沖縄へ家族旅行に行ったときに、2泊3日で行ったんですけど、そのときに観光で行くというと、結構2泊3日とかで濃密な遊びのスケジュールとかを立てるんですけど、沖縄の高速を走っていてちょっと一瞬思ったのは、すごく伊豆半島、県東部、伊豆地域に何か景色が似ているなというのを一瞬感じたときがあって、旅行が終わって戻って調べたんですけど、沖縄本島の北から南が約100キロで、私たちが住んでいる静岡県東部、富士山から下田の先までがちょうど100キロで、沖縄の本島と同じような大きさで、静岡なら今日は下田でダイビングするけど、明日は富士登山ができるよみたいな、駿河湾はマイナス2,500メートルで、富士山は3,776メートルで、南北に楽しめるだけじゃなくて上下に5キロも楽しめる地域ってほかはないのかなというところで、自分の中で「仮静岡県東部沖縄本島化計画」が自分の中で進んでいます。進んだから何しているのか、全くしてないんですけど、あくまで妄想で、でも何かそういう観光がにぎやかになると、若者もそういう職業を求めて来るでしょうし、観光もにぎやかになるといいななんていうことがまず1つあります。

もう1つなんですけど、アート・クラフトフェアを続けて先に何があるのみたいなのを最近考えるようになっていて、今県主導で富士宮に富士山世界遺産センターが計画中で動いていると思うんですけど、自分の中ではアート・クラフトフェアを続けた先に御殿場に美術館のようなアート・クラフトセンターができればいいなと、これも漠然と勝手に妄想しています。せっかく世界の富士山にまつわる文化が評価されたんですから、新しい文化とかアートを発信するスペースがあってもいいなと思って、それが御殿場にできたらいいななんて、クラフトフェアを企画しながらそんな2つを妄想しています。お付き合いいただきありがとうございます。

<県知事>

発言者5さんと発言者6さん、それぞれ発表をなさり、また発言者6さんは非常におしゃれですね。ボランティア精神にあふれたお二人の情熱的な個性的なお話を聞くことができまして喜んでおります。

まず発言者5さんの「御殿場みくりやそば」振舞隊にかける情熱は大変なものですね。そしてそれを御殿場市長さんが同じ法被をお召しになって励まされているということで、官民一体になっているというのを実感しているところです。この「みくりや」のおそばは山芋でつないで、そして椎茸と鶏肉を入れて、色も形もやっぱり独自ですよ、唯一のものではないかということで、やっぱり違うということで、そこが個性的でいいと思うんです。

それから「みくりや」というのは、その昔はきっと朝廷、あるいは高貴な方に食材を提供するというそういう由来があるのではないかと存じますが、ですから非常に誇っていい名前ですね。名前がやっぱり効いているなど。御殿場というのがもっと効いていると思いますが、いっぱい名前が出るので豪華絢爛という感じでありまして、その意味で今33店舗も振舞隊の店舗があるということで、これを上手にPRするために企業サポーターと組んでなさっておられるのも、これはやはり日ごろサラリーマンをされている方の知恵の賜物ということで、単なるボランティアと違ういいビジネスマンの知恵が入っているというふうに思った次第です。味もうまいし、名前もいいし、いろんところでこれを多くの人に親しんでいただくという仕掛けはやるべきだと。

そのうちの1つが2020年のオリンピックということで、そのオリンピックというのはスポーツの祭典ですから、そのスポーツという観点で御殿場で何ができるか。小山町も含めてこの地域で何ができるかという、さまざま東日本大震災のときにJヴィレッジという寄宿舎の中に入りながら中学・高校に通い、そしてプロスポーツの訓練をするというところがJヴィレッジができなくなりましたので、こちらで今お預かりしているわけですが、富士山の麓で大変に子供たちが伸び伸びとスポーツをしていると。今そのサッカー場も増えているようでありますね。ですからそういうきっかけで一気にこの地域の持っているスポーツを支える場の力というのが出てきたのかなというふうに思います。

それから毎年最低少なくとも一度は高校生の馬術大会で秋篠宮様がお越しになられまして、御殿場市長、大変温かい応接をされているんですが、その馬術ということについての素晴らしい競技場がございますでしょう。この間はプロの方の競技がございまして、常陸宮妃殿下がこちらにおなりになりました。そのような意味でこのスポーツというのは非常に大きいと思います。そしてそれを繰り広げるための場所もありますね。ですからラグビーだとか、あるいはそうですね、自衛隊の射撃があるから射撃とか、飛ぶならアーチェリーだとか、起伏があるからクロスカントリーだとか、こういうふうなことも場所があるか

らできるということで、そういうことでいろいろ可能性があるんじゃないですか。

だからスポーツワールドというか、スポーツのメッカ、しかもそれは教育とか練習とかということとあわせてやっている。単にプロが来てやるというんじゃないで、ここで練習をし、技を磨いていく、これ教育効果がある、そうしたことができる地域にするのがいいんじゃないかと思うんですよ。ですから中学生、高校生がいますと、そして例えばラグビーの練習をしますとか、あるいはトラックの練習をしますとかいうふうなことで、練習を兼ねる。すなわち訓練をし、自己の技術を磨いていく。そしてまたそれにかかわるトレーナーがいるといいますか、同時にまた怪我もするので、それをしっかりと治すためのリハビリのシステムをきっちり備えるとか等々、システム化された形でのスポーツのメッカ、恐らくそれは日本で富士山の麓でやるのですごく魅力的だと思います。

日本一になれる可能性がある。日本一になるということは、実はアジアの中のメッカになれるということで、富士山の麓で、差し当たってはサッカー場、それから関連のラグビーだとか、その他のスポーツですね、こちらにふさわしいようなものを市長さんと一緒にお考えいただいて、我々も県としても御協力を差し上げ、国と協議をして、そういうメッカづくりをしていくということが出来るんじゃないかと思います。

そしてそれは健康ということと深く関わってくるので、病気になった場合、あるいは怪我をした場合、そうした場合にそのお医者様というか医学と健康産業というのは重要です。健康産業は最近新聞をにぎわしていますけれども、医薬品と医療機械で1兆円を超えましたね。ダントツで日本一なんですよ。医薬品については埼玉県に次いで2位ですけども、伸び率がすごくいい。抜くと思います。医療機械については、これはダントツです。2位以下を2倍程度、2位は栃木県だと思いましたがけれども、それは4,000億円ぐらいつくってまして、生産額、これは医療機械というのは輸入しているんですよ、かなり。

これはかつて車を輸入していたと、あるいは繊維産業を輸入していたと、これ後に繊維産業は輸出国になりました。日本の今自動車は輸出材の代表です。ですから医療機械も輸出材になり得ます。そしてそれは6,000億円ありますから、医療機械だけで、6,000億円の生産額ができますと輸出できますよ。そういうアメリカ産を中心にしたところでうちが輸入しているものは、中国にも韓国にもアジア地域に輸出していますから、それに打ち勝つだけの医療機械をつくれれば、市場がものすごく大きくなるということで、健康産業におきましては、今東部を中心にして日本一を誇っているんですよ。

だからそれを担うためには、今度はお医者様だとか介護・看護の方たちを持たねばなり

ません。そのときにこの地域のお医者様がそういうところにとられるというそんなちまちました考えでどうするんですか。そうでなくて世界に貢献するための、世界のメッカ、アジアのメッカ、日本のメッカなので、当然各国からお越しになって、そしてここで訓練をして、またそれぞれの母国に帰られて医療の仕事に従事されるということで、特に貧しい国とか開発途上国に対して、そういう人材を養成して差し上げるということで、やるべきことは人助けですから、もう山ほどあると。富士山は世界の宝になったので、静岡県下の中でお医者さんの融通がうまくいかないというふうな考え方は、それはそれとしてそのとおりなんですけど、我々はもう世界の宝を見ているのでありますから、世界に何がこの地域で貢献できるかという観点で考えれば幾らでも知恵は出てくると。

医学部だけではありませんよ。この方面はメッカにしていくということで、それは機械とかスポーツ関連施設ではなくて人が大事なんです。ですからその人をつくっていくということにつきましては、幾らしてもいいということで、ここがメッカになるための方策を今考えているということでもあります。

それから発言者6さんは5回目で、妄想というか構想力というか夢というか、それをお持ちでよろしいですね。クラフト、要するに工作物を、芸術的な工作物ですね、そして同時にそれが役に立つともっといいとも思いますけれども、例えば今日たまたまこちらの「さくら」の卵ですね、あれプリンがおいしいの知ってます？卵もおいしいですけれども、その加工品もいいんですよ。

そこにおじいちゃんがいらっしゃいまして、そのおじいさんが大体最初は800羽ぐらいのニワトリだったんですよ。それが今1万ですからね、1万3,000。そしてその間を見てこられたんですよ。それを絵に描いていらっしゃる。私は卵にも目がいきまされたけれども、周りに美術館みたいになっているんですよ。すごいなと思っていたら、それはおじいちゃんがつくっておられて、それから卵がお店に置いてあるんですけど、置いてあるその入れ物がクラフトなんですよ。つまり彫刻された木彫りなんですよ。趣味でやっているとおっしゃるけど、だけどその趣味が高じて、ほとんどもう名人に近いというか、別にそれを売するためにやっぴらしないので、ですから純粋な気持ちでなさっておられるからすばらしいと。

ですから、そうしたものをできるんじゃないかというのがね、つまり家族でやって、そして音楽や、あるいはクラフトや、それから御殿場の高校の情報デザイン学科というのがありますね。そのデザイン学科の少年少女たちが来て、小さな子供や、あるいはプロと混

じって自分たちのできることのお手伝いをしながら、僕は一方で学んでいらっしやると思いますよ、高校生たちも。そういう意味でクラフトの運動というのは、周りの自分たちの生活用品に一種美しさを添えていくと。

それも自分で少し工夫しながらやっていくというのでなりますと、クラフトのメッカも、ここはたまたまきょうは養鶏場のところ、あそこももともとは卵を届けるだけだったわけですよ。ところが今の経営者のお母様が彼を背中で背負いながら、ちょっと店で売ってみたと、売る真似をしたら、それがどんどん、どんどん買ってくださいるので、だんだんと店を広げて正規の店員の方とパートの店員の方がやっていらっしやるんですよ。私はこれはすごいと。

つまり生活の中でややこをおんぶしながら、あやしなながら売っておられたんですね。私はこれが根本じゃないかと。ややこはお母さんがやっているのを見ているでしょう。おじいちゃんがそこで絵を描いたりしているわけですよ。そうするとそれを見ているから、つまり今はサラリーマンになって職場に行き帰って来てくたくたになっているお父さんしか見ない、お母さんしか見ないと違って、そこで見ている。だから職場にはややこが大きな声で泣いている、あるいはエンジェルスマイルでかわいい笑顔を見せている。それはあってもいいじゃないですか。

ですから私は知事室全部それに開放しようかと思っているぐらいですよ。そこでぎゃあぎゃあ泣いていると。そこで会議していると。別にそれがどうしたというんです。いずれ泣き止みますから、疲れて。ですからそれくらいのことで普通というふうに思えばいいと。それで私の部屋は5階にあるので、5階まで上がってくるのは大変だから、今1階か2階にというふうにはなっておりますけれども、別にそばで赤ん坊が泣くのは当たり前ですから、ですからそれを当たり前にするような仕事の形態というそうしていくと、何も待機児童をゼロにしようかと言っていますけど、待機児童というのは、お母さんが保育園に預けるそれを待っているわけですね、預けられるかどうかと。お母さんが待機しているんですよ。だけど本当に待機しているのは子供でしょう。子供がお父さんとお母さんが帰ってくるのを待機しているんですね。早く帰ってきてと言葉にならないけど待っているんですよ。だったら初めから帰ってきて、つまり一緒にやればいいと、こういうわけです。

だからそういう考え方で仕事と子育てが両立する両立しない、とんでもないと。子育てそれ自体がこういう今発言者6さんから情熱を込めて言われたように、子供たちにとって役に立つんじゃないかと。すごいミュージシャンが育つんじゃないかと、すごいクラフト

マンが育つんじゃないかというそういう気持ち、つまりこれは子供を育てるということは、実は最も重要な、最も大切な仕事だと。学校の仕事というのは、子供を育てることですから、これはもう国が義務教育として子供が学ぶ権利だと、親は学ばせる義務があるということで、義務の教育なわけですね。それよりさらに小さな幼稚園、保育園、さらに生まれたばかりの子供たちというのは、みんなで育てると、困っているならみんなで育てるということで、あやすのもみんなであやせばいいということでもあります。そういうふうに変えていきたい。

仕事を犠牲にして子供を育てるのは嫌だというのは言い方がおかしいと。そもそも仕事をして、何のための仕事をしているか、自分の家族が幸せになるために、特に子供をしつかり幸せに育てるためにやっているわけでしょう。だったら、それは一番の目的は自分の子供ではありませんか。子供が幸せになれば自分も幸せになれるということですからね。ですからその原点に戻っていくというそういう考えを発言者6さんは妄想とおっしゃったけれども、実際はこれは本当に温かい優しい夢だと語られたんだと思いますね。それを我々は形にしていく必要があると、こういうふうに思いました。ありがとうございました。

<傍聴者1>

知事さん、どうも今日は御苦勞様でございます。私、今日富士山のテーマのことが多いんですけど、御殿場山岳会で今指導員をやっているんですね。

それで冬山を何十年か歩いて、富士山の遭難者を46年の24人が亡くなったのからずっとやってきて、先輩あるいは警察の方、今冬山の富士山の遭難は県警の機動隊がやっておられるんですけど、ヘリコプターを飛ばしてきても、私たち地元の山岳会の人よりどうしても遅れちゃうわけですよ。おまわりさんというのは各署にいて、普段はほかの仕事をして来るわけです。僕らも山岳会員として夜中に電話があって、さあ行くだというわけで、会社に公務執行をもらって何人かの遺体を下ろしました。一番辛かったのは家族が泣くところですよ。死んじゃった人間は、交通事故もそうなんですけど。

知事さん、富士山はすばらしくて、私ね、一番ショックだったのは、数年前に、関西の女の子に電車に乗ったら、「お客さん、富士山で日本一汚い山だろ」と言われました、そのとき、涙が出ました本当に。まだ富士山がこんなに皆さんに知られてないときで、山小屋は汚いし、道は汚いし、ごみだらけだと。今行ったらびっくりしちゃうと思いますよ、本当にすばらしくて。冬山に行っても、駐車場なんてそのころごみこんな積もっているんで

すよ。僕が拾いに行ったところに捨てるんですよ、こんなごみを。

それは一応あれですけど、余り話が長くなると。それで1つ一番知事さんをお願いしたいのは、今富士山の冬山遭難というのは、皆さん知らないと思いますけど、救助する人は県警の隊長がいますけど、彼は僕ら御殿場山岳会が主になって小山と同時に指導しました。それで彼らが頂上まで行って、遺体を下ろすこともありますけど、命がけです、命がけ。それは警察官だから当たり前だとしても、それはやってみないとわからないと思います。

ぜひお願いしたいのは、日本一になったと同時に、冬山というのは皆さん知っている世界じゃないと思いますけど、できたら自然保護法とか規則があってできないと思うけど、山小屋を整備してもらいたいということ。

それと救助体制というのが、今は県警のヘリコプターが来て、あそこまで来て、昔より技術も向上した、すごくすばらしくなりました。でもまだまだですね。一刻も早く運べば助かる人間が何人かいますよ。だからぜひ救助体制を、今はすばしくなったけど、もっともってもらいたいこと、それを一番お願いしたいです。夏山は全部小屋が一応たんたありますので、僕が言いたいのはそれだけです。ひとつよろしくお願いします。ありがとうございました。

<傍聴者2>

小さなことですけど、先ほど茶文化とか、沼津市から12年前に引っ越してまいりまして、もともとは小山町の出身です。海の文化、山の文化の違いとかいろいろなことを感じましたけれども、前の前の年でしょうか、国民文化祭というのがあったかと思いますけれども、秩父宮邸とか岸邸なんか、いろんなあちこちを利用してお茶会開いて、すごくいいことだと思います。私も時間を割いて、ちょっとお煎茶の方をしましたので、参加させていただきました。

次に迎える国文祭の倉敷の方が見えていまして、実は御殿場の銘菓は何ですか。お茶席といたらまずお菓子が振る舞われます。そしてお茶が出されます。お茶については本当にすばらしいと思いますけど、はて、御殿場の銘菓っていたら、私もちょっと答えに困りまして、小山町なら個人的なお店でくるみまんじゅうとかありますけれども、各お菓子屋さんがありますけれども、チェーン店のところもございます。また個人でやっているところもありますけれども、羊羹の虎屋さんもこちらで工場があります。岸邸のそばにまた新しく工場なんかつくっていますけれども、本当に小さな話ですけども、やっぱり御殿

場の銘菓をお菓子屋さんたちで協議されたらどうでしょうかね。

1つとは言わず、ワサビを利用したとか、お茶の関係のものとか、富士山ですよ、今富士山のケーキとかクッキーなんか、盛んにあちこち沼津の方でもつくってますけど、やっぱりちょっと御殿場の銘菓はこれですのようなものを、1点だけじゃなくて、もう何でもある中で、皆さんで考え出していくというのもいい方法じゃないかなって思っています。知事さんには今度振る舞われるといいかと思いますが、1点そんなことです。

茶文化は本当に総合文化です。それで発言者2さんが着られている着物なんかも利用されます。本当に立ち居振る舞い、着物を着ての交流、私たち日本人が外国に出ていったら、あなた方の文化は何ですかといったら、やっぱり着物文化、茶の文化とか、そういう文化、独特の文化を私たちが継承しなければ、ほかの国の方はやらないと思います。やっぱり総合文化も大事だと思います。食の文化もつながっていくと思います。よろしく願います。

<傍聴者3>

私は御殿場市二枚橋に住んでおります。実は私大変気の重くなるようなことを知事にお尋ねしたいと思っております。と申しますのは、私は御殿場市の小中学校の支援学級の保護者の任意でつくっております太陽と富士山親の会の会長をさせていただきまして、今日パネラーの発言者4さんと一緒にやらせていただいております。ただいま私ども支援学級の中、皆さん御存じないかと思いますが、情緒学級と知的学級に分かれております。

これ私全部言うと長くなりますので、市と、それから県の行政の関係でお尋ねしたいことがございます。と申しますのは、私どもの会員の中で今非常に悩んでいることがございます。それは情緒学級のADSD、アスペルガー症候群、それからそういったような多動性のあるお子さんの進学問題でございます。

皆さん御存じのように、小中学校は義務教育です。これは否が応でも小中学校には入る権利がございます。ところが高校の進学となりますと、これはどこも受け入れてもらえない、その現状がございます。このことを市の方にも御相談しましたら、市の学校教育課は何とか進学させたいんだけど、県の教育課の方で受け入れてもらえないということなんです。

これ私先ほどいただきましたパンフレットを見ましても、豊かな、幸せないろいろ書いてございますが、その入れないお子さんのお母さんの悩んでいることは、中卒で終わっ

てしまうのか、それから就労の問題、これが全く受け入れてもらえない、そういった場合どうなるのか。これは当然引きこもりになったり、それから行き詰めてしまうと、要するに自殺だとか、大分県の日出町でありました子供を殺害してしまったりというところまで行き着くところまで行くのではないかと。我々障害を持っている子の親は先に死にます。死んだ後の子供の生活をいかにしていくのかということ常日ごろ悩んでおります。そして世の中には肩身の狭い思いをしています。自分を責めてしまいます、そういう世の中です。

これは何で県ではそこを受け入れてもらえるような考え方を持っていないのか。教育課の方で何で閉め切ってしまうのか、そのことを知事にお考えいただきたいと思えます。知事は大学の学長もやっていたということで、教育のことには御理解があると思うんですが、現実にはそういう問題が発生をしているということ認識していただきたい。また知的なこと、この問題もさまざまあります。ですが私はそのことだけを最後にお尋ねしたいと思っております。お考えをお聞かせください、お願いいたします。

< 県知事 >

まず最初の傍聴者1さん、富士山への思い、また冬山に登って遭難をして、ついに落命をすると、今度は遭難している人を助けに行く、あるいは御遺体を運ぶということをなさってこられて、救助体制をしっかりとしろと言われるのももともとで、その間、富士山の姿を見てこられて、ごみの山とすら言われたのが今みんな気がつきまして、ごみを出さないようにしたし、バイオトイレもできるようになりました。にもかかわらず、まだ遭難というのは何しろ自然が相手ですから起こるので、県警だけでなく、傍聴者1さんのようなそういう山岳会の方たちのお力も借りてやっているということで、こういうことが起こらないようにしなくちゃいかんということですね。

< 傍聴者1 >

今は消防の方が一応担当されているんです。ただ僕らは一応そういう体制はできているんですけども、担当は今消防さんがされているんですね、遭難は。それと県警の方と一緒に。

<県知事>

そうですね。これからともかくそういう不幸なことが起こらないように、救援体制、救助体制をしっかりするというのを改めて自覚をして、関係者の方にそういう御心配の向きをお伝えして今どうなっているのか、傍聴者1さんの方に、もう知っていらっしゃると思いますけれども、どういう方向に動いているかということも含めて御報告をさせていただければと思います。

それから傍聴者2さんの言われることは誠にもっともで、生活の総合芸術とも言っているですね、お茶は。そういうことではありますが、一方で具体的にお菓子はどうなっているのかというわけで、小山町にはくるみのおまんじゅうがあると。まあしかし材料がありますからね、これからつくればいいと思いますし、今あるものを育てていくということもできるでしょう。ですからこれはある意味で楽しみですね、いろんな材料があるので、これを現代、21世紀に合った形で若い人にも、お年寄りにも楽しんでいただけるような、いわゆる昔のお抹茶だけでなく、こちら静岡県は煎茶の文化ですから、煎茶に応じたお菓子というのがきっとあると思うし、ひょっとすると洋菓子っぽい和菓子というのも今はあると思うので、「さくら」なんかと一緒にやればいいんじゃないかと思った次第でございます。

傍聴者3さんは非常に深刻なお話で、問題のあることは知っています。中学までは支援学級がありますけれども、高校に行くとそうした行き場がなくなるということで、西部の方では周智高校という高校が昔あったんですけども、そこが隣に総合高校ができたので、周智高校をそういう方たちが通えるところにするということで、今骨を折っているところなんです。

ただ、全県下、同じような問題で苦しんでられる方がいらっしゃることを承知しております、どのようにすれば力になれるのか、障害を持っていてもできる仕事がありますわね。また仕事でなくても、自己表現をする力を皆持っている人もいるし、もちろん本当にきついお子様もいらっしゃるということで、これはみんなで支えていくという以外にないと思っているんですが、制度的にそういうものがないから助けないというのは間違っていると思います。

今教育委員会でそういう言い方をしているとすれば、それはもう本当に心なき応接で、具体的に発言者3さんのところに即して、今お子様お幾つですか。

<傍聴者 3 >

私のところは今製作所の方に通っておりますけれども。

<県知事>

おめでとうございます。

<傍聴者 3 >

会員の方はまだ小学校高学年です、その悩んでいらっしゃる方は。

<県知事>

すごく苦しい、しかし親御さんの愛情で子供もそれなりに育っているということがありますので、個々具体的に支援をしていく必要があるというふうに思っているんですよ、一般論としてではなくてですね。

ですから今お子様はそれなりに自立の道を見つけられたというのは本当によかったと思いますが、一人一人、こういう障害を持っておられる方が増えています。その人たちと一緒に生活をしていくのが、これからの我々の社会的義務になっているのではないかと思いますので、それから生まれつきにそういうものを持っている人もいるし、また生まれてから虐待に遭って、まともな社会生活に戻れないような傷を負っている子供も実は増えているんですよ。ですから健常者も、そういう障害を持っている人も、どういうふうになれば差別なく生きていけるのか。

それから例えば障害を持っている方を雇用するということで、今全体の雇用率の 1.8%というのが 2%に引き上げられたんですが、ようやくうちは 1.78%までできました、障害者の雇用率が。まだ 2.0 という法定のところには達していませんけれども、徐々に増えています。ですからそれぞれの得意のことができるということを皆が考える必要がありますね。

それから、今日僕持ってきていませんけれども、障害者の方たちが働いているところがあるでしょう。それを使うということが大事ですよ。私はかばんは焼津の授産所でつくられたものをずっと使っています。だから一人一品、障害者の方たちがつくっているようなものを使うとかいうふうにするだけで 372 万人いますから、それで今大変に低い給料で働かされているというところがあるんですよ。それを上げるためにも使う以外にありません。

静岡県の県庁には東館の 2 階に食堂があるんですよ、小さな喫茶店みたいな。毎日とい

うわけにいきませんが、そこに行って食事をすると、カレーライスとスパゲティなんですけれども、それを通してそのお金がそちらに回るようにすると。いろいろな直接支援でなくても間接的な支援もできますから、そういう温かい目を、非常に困っていらっしゃる方たちが少なからずいらっしゃると。今お聞きになったように、そういう人たちのために何かできることがあるなら、自分のできる範囲のことでやってみよう。授産所の商品ができる限り使うと。各市町ではそうしたことをぜひ運動としてつくり上げていただければというふうに思う次第です。すぐにお役に立つ答えでなくて申しわけありませんでしたが、そのように考えております。

<傍聴者3>

知事、私が言っているのは、行政の人たちが共に私たちの苦しみをわかっていただいて、それを何とか解決しようという相談をする雰囲気ではなくて、そこでシャットアウト、国がそうになっていますからできません、県がそうになっているから市はできませんというそういう態度が非常に見受けられるんです。そのためにもう私どもでは行政に物事を頼んでも何もしてもらえないということを考えている親御さんたちがいっぱいいるということをお聞きしたい。

<県知事>

行政と言ってもですね6,000人です。6,000人は多いと言ってもいいし、少ないとも言ってもいいですよ。この御殿場だけで9万人いるでしょう。そして小山町に2万人いらっしゃいます。それと比べれば6,000人なんてわずかなものですよ。ですから何々課に行ったらと言われれば、何々課のだれそれに言ったと、固有名詞で言われるべきです。傍聴者3さんが川勝に言ったと、川勝からそう言われたと、その人が言ったので、行政という抽象的なものが言っているんじゃないということで、ですから私は今県に言っておきましたと、県のどなたに言われましたかと。

そして県でも2年ごとに持ち場が変わりますでしょう。その持ち場は2年間事なきを終われば、また別のところに行けると。2年間は何もしなくてもいいようなところもあるんです。2年間で何をしたらか。だからできない理由は幾らでも言えます。先例がないからとか、制度がそうになってませんかとか、できない理由は山とある。それはもう言うことはやめましょうと。どうしたらやれるかという方法を一緒に考えようというそういう姿勢

に変えるということで今やっているんですよ。

ですから傍聴者3さんも固定観念をお持ちにならないで、十分にまだ末端というか、窓口のところまで浸透してないかもしれませんが、何ができるかを一緒に考えると。できない理由はもうわかっていると、いっぱいできない難しい理由があることはわかっている。だけどできる方法を一緒に考えるというように変えつつありますから、そうあきらめないでください。